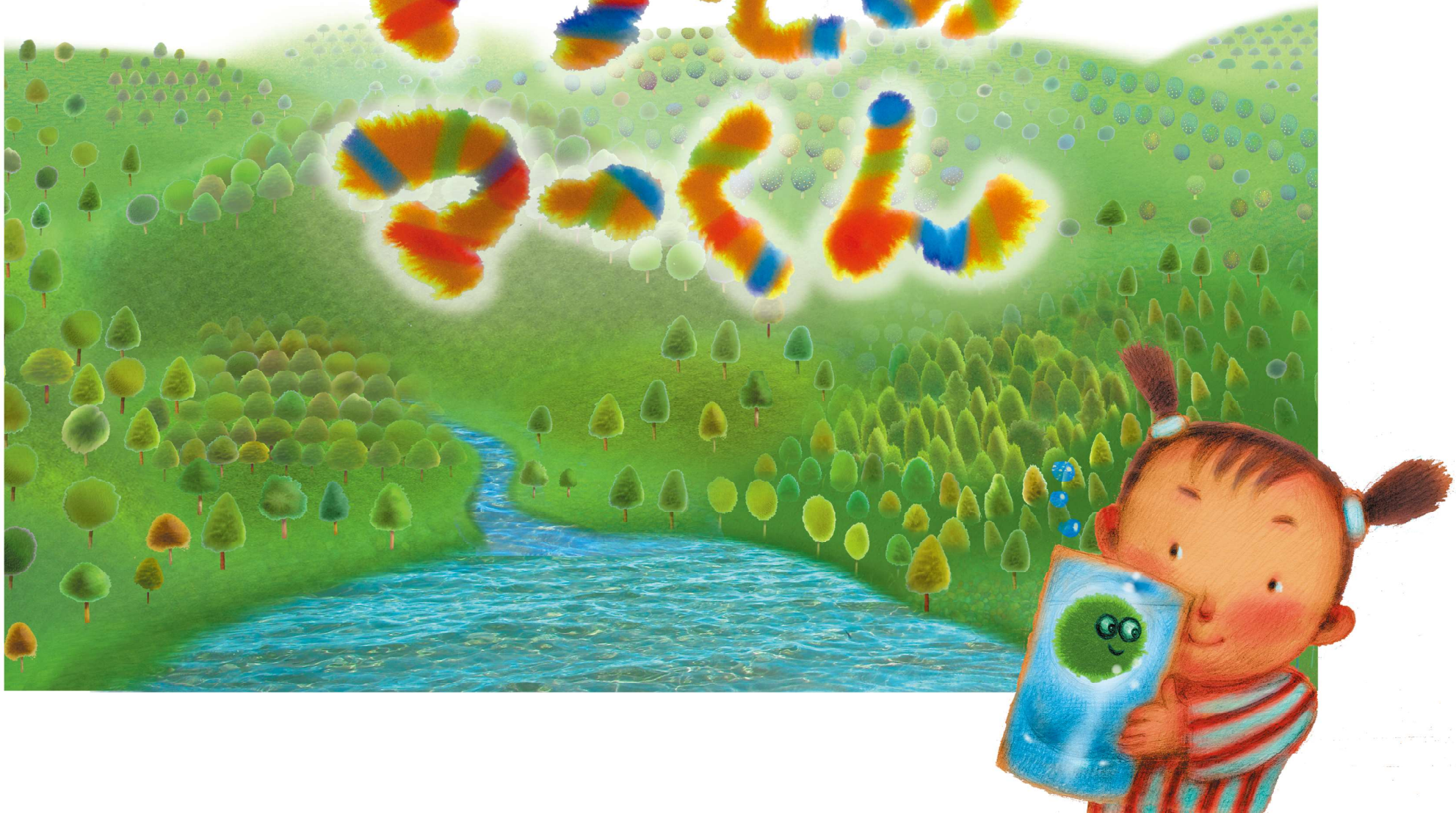
さっちゃんと
ミドリのおくりもの

絵・文　すずきじゅんこ
原案　さつきあつし



私は　さっちゃん。
なまえは「ほんださちこ」

本を　読むのが
大好きです。



「あれ？　これはなに？」

早く起きた　ある朝の　ことです。
さっちゃんの　ひたいの　上に
“まあるい　緑の　もにゃもにゃ”が。

？？？？　これってなあに？



「ぼくは　マリモだよ、マリモのマーくん」



「マリモ！
それならば　お水に　入れなくては！」

「おかあさん、おかあさん　これを見て」

「ま～、マリモじゃない。かわいいわね。
最近ペットで　はやっているのね。
雑誌に出てたわ」



「マリモのマーくんだよ」

「はじめまして。マーくんです」

ある日。
しくしく、しくしくと
コップの　中の　マーくんが
なきはじめました。

**「さっちゃん、
ぼくたちの　なかまを
たすけてください」**

「え～、でもどうやって？」

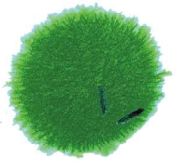


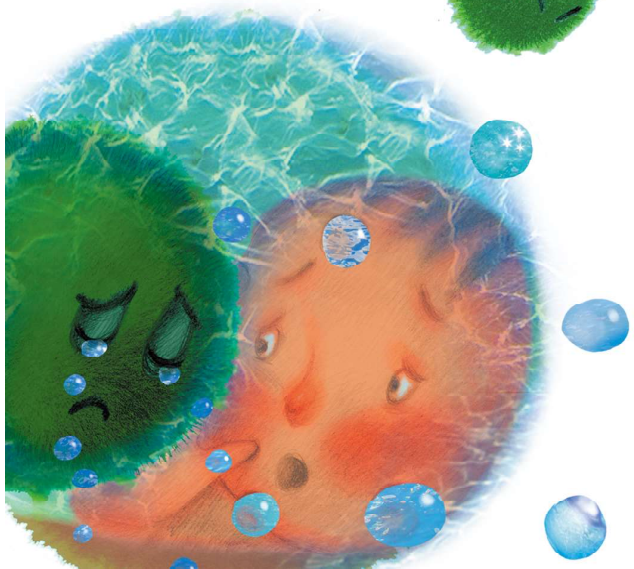
コップから ふんわりと とびあがった マーくんは、
ぐんぐん 大きくなって いきました。

「さあ、ぼくに のって。
ぼくの うまれた 湖まで
いっしょに きてよ」









ふわふわの 毛に つかまって
さっちゃんは
「よいしょっ！」と、
マーくんの 上に とびのりました。
窓から 2人は とび出しました。

「うわ～！ すごい、すごい！
お空を とんでいるわ！」

どんどん高く、高く
マーくんは あがっていきます。





雲の　あいだに　町が　見えます。

「工場や　ビルが　いっぱい　建って、
車も　いっぱい　走っているよ。
ゴミだって　いっぱいなんだ。
川も　空気も　よごれているんだよ」

「ごほ　ごほ　ごほ！
　きゃ～！　これはなに？」



とつぜん、さっちゃんたちは
くろい　けむりに
つつまれて　しまいました。



「ごほ　ごほ　ごほ！
**　工場の　けむりに　まかれたんだ！**
**　ごほ　ごほ　ごほ！」**

「たすけて～！」



「さあついた。
ここが ぼくの 生まれた ところさ」

やっとのことで けむりから のがれ、
マーくんと さっちゃんは
山に かこまれた 湖に つきました。

山といっても はげ山で
湖は 茶色く にごっています。

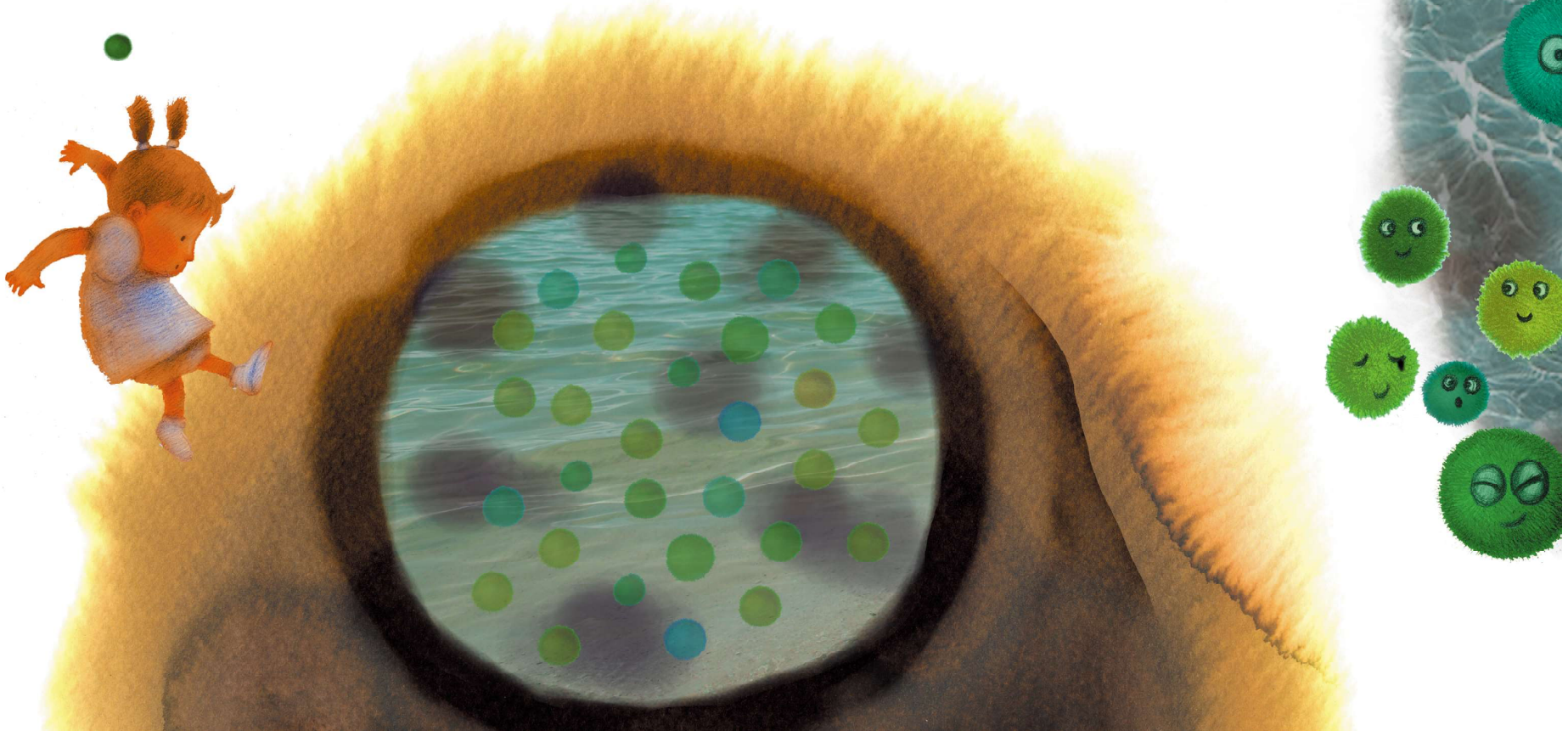


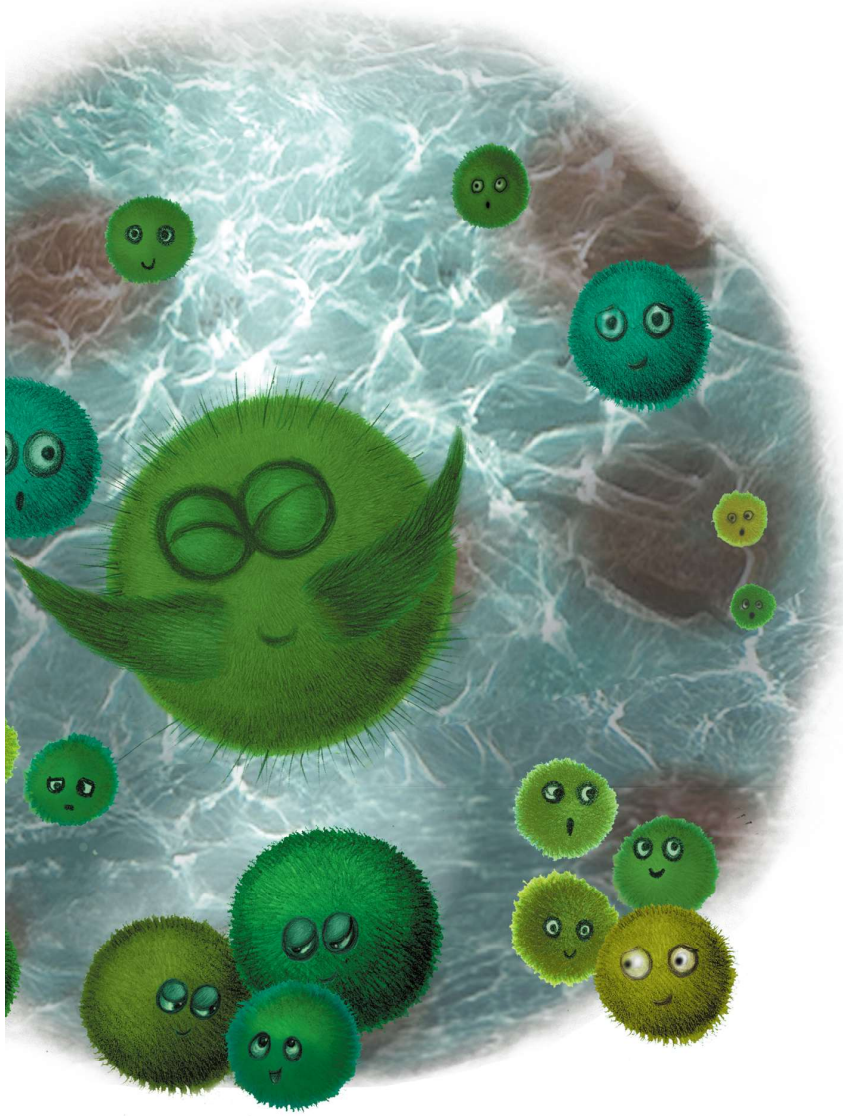
湖には　たくさんの　マリモたちが　いました。

「マーくん、おかえり。よく　さっちゃんを　つれてきてくれた」

「マーくん、りっぱに　おつとめを　はたしたね」

マリモの　中でも　いちばん　大きくて　毛の　ふさふさした
長老の　マリモが　あいさつを　しました。







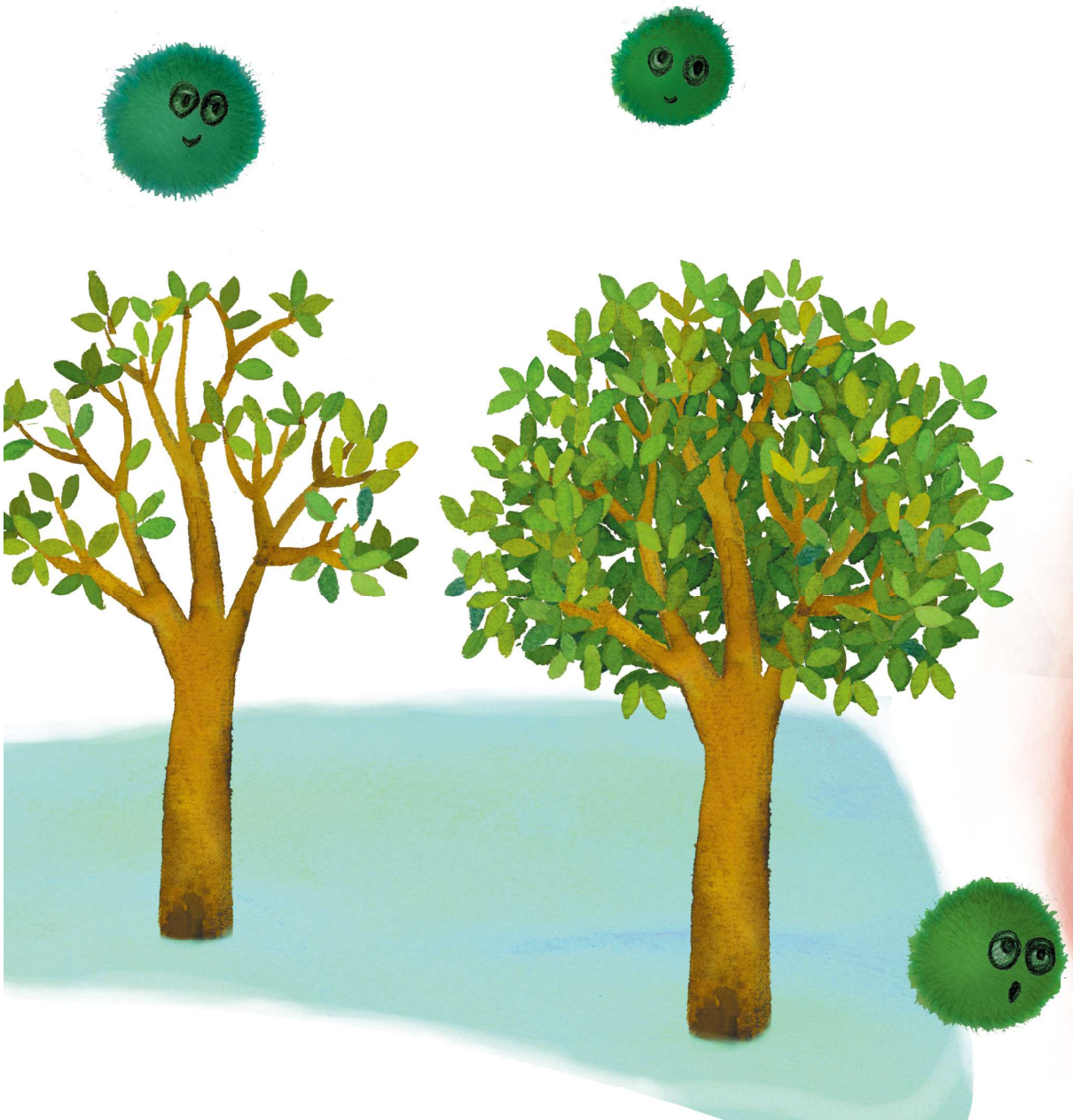
「本好きの　さっちゃんじゃな、
マーくんが　おせわになった。
おれいを　いいます。
どうか、わたしたちの　湖を、
いや、この地球を　よごさないで　ほしいのじゃ。
それでないと、たいへんなことに　なるのじゃ」

「え～？　でも　どうやれば　いいの？」

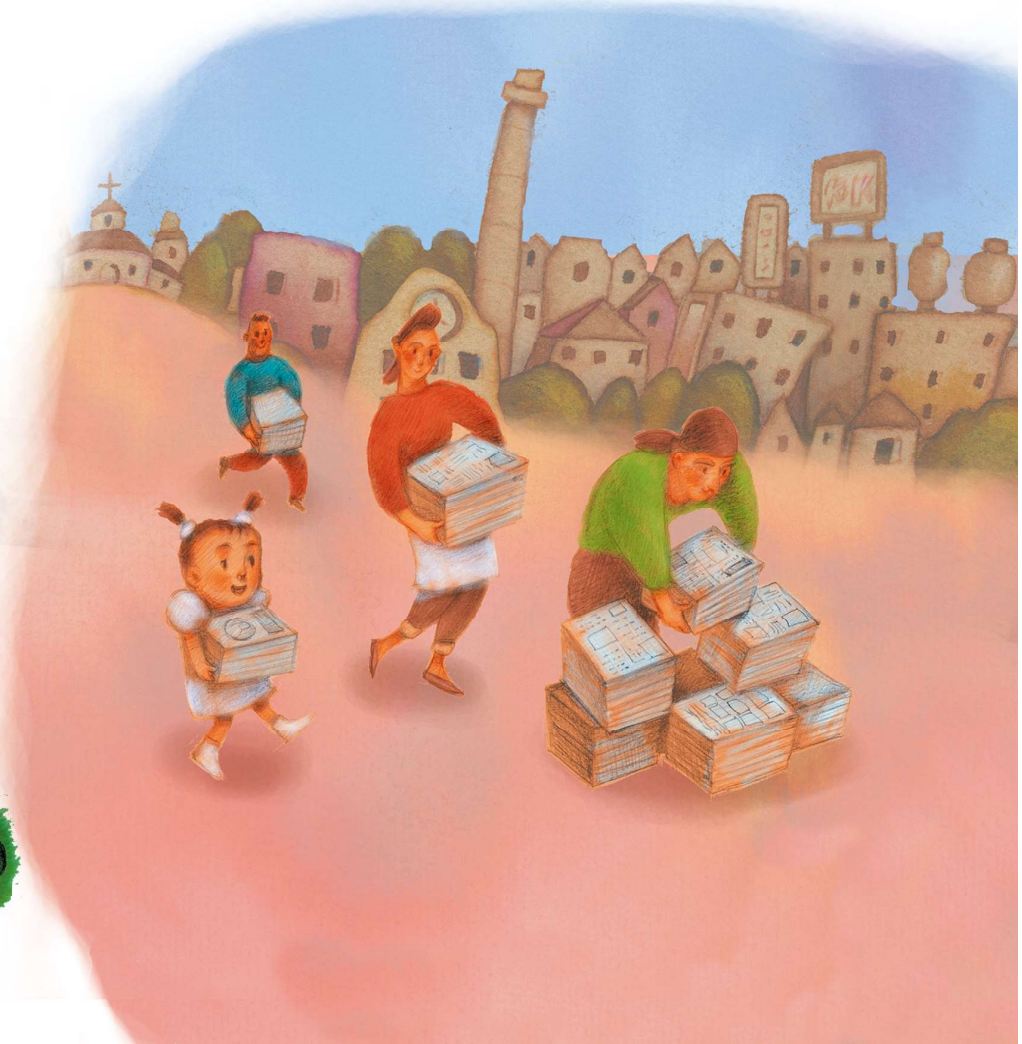


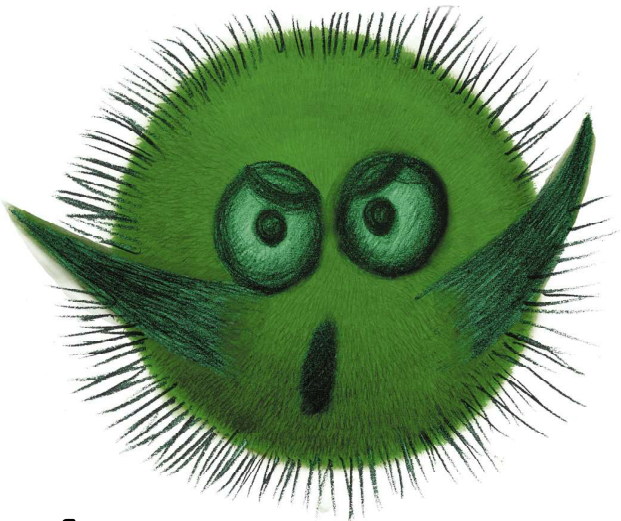


「よごれた　水や　空気を　きれいにするには、
緑を　ふやすことが　だいじなんじゃ」



「さっちゃんの　大好きな　本はね、
　木から　つくられた　ものなのだ。
　読んで　いらなくなった　本や　新聞紙は
　リサイクルに　出すことじゃ」





「リサイクルってなに？　じゃと？



リサイクルとは、いらなくなったものを
バラバラにして、
もういちど使えるようにすることだ。
つまり、生き返らすということじゃな」

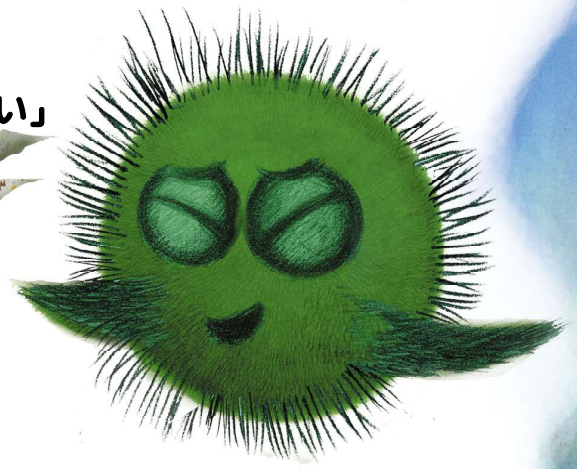






「すこしでも　木をきらないで　すむように。
そして　どんどん
木を　植えてほしい」





「わかったわ。きっとそうします。
おともだちの　マーくんと
その　なかまたちの　ためだもの」

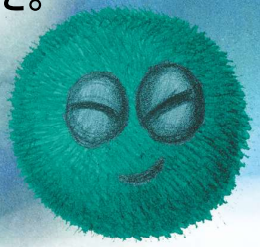


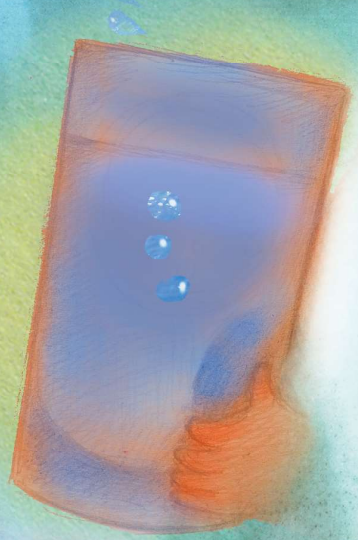




気がつくと ここは さっちゃんの 部屋。

あれ、あれ、うたたねでも していたの？
そこには からっぽの コップが ありました。





窓が あいていて お空が 見えます。

「ぼくたちとの やくそくだよ～ わすれないでね」

どこか 遠くで マーくんの 声が しました。



そんな　お別れから
どれだけ　月日が　たったことでしょう。
もう　さっちゃんは　おとなです。





川の　水も　すきとおり、
町は　木々に　かこまれていました。
けむりの　あがる　工場も　ありません。
きっと　マーくんの　湖だって
きれいに　なっているに　ちがいありません。

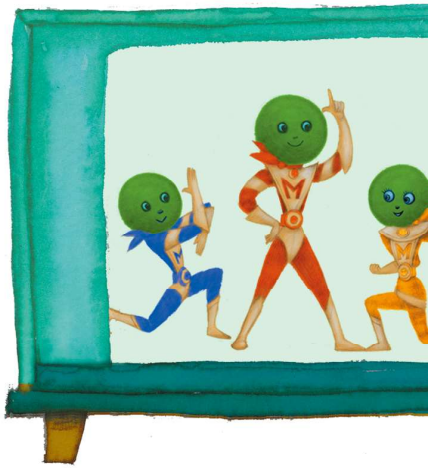


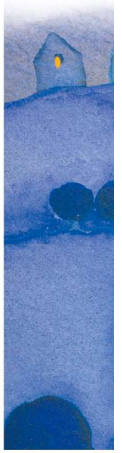
緑いっぱいの　公園では
子どもたちが　遊んでいます。

「あ、たいへんだ！　もうすぐ　マリモレンジャーの　時間が
　やってくるよ、おうちで　テレビを　見なくっちゃ！」

「ほんとうだ、さあ、かえろう、かえろう」

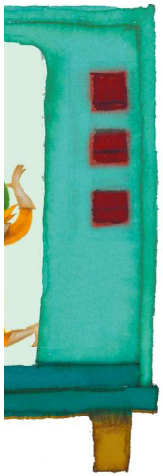
ジャジャ〜ン、マリモレンジャーの　始まり　始まり!











「道に　ゴミを　ポイ捨て　しているやつは　いないか？」

「お水を　出しっぱなしに　しているやつは　いないか？　ストップだ！」

「いらなくなった　紙を　そのまま　ゴミ箱行きに　しているやつは　どいつだ！」

「ん？　ペットボトルを　むやみに　捨てるんじゃないぞ！」

「そんな　やつらは　マリモビームで　おしおきだ！　ビビビビビ〜！」

「マリモグリーン、マリモレッド、マリモイエロー、
マリモ・スリーレンジャーはゆるさないぞ！」







株式会社 さつき　代表取締役　皐月　篤

私たちは未来の子どもたちのために、今何ができるのだろうか……
そんな思いでいたある日、娘から絵をもらいました。
それは “まりものひるね” と題してあり、
ねとぼけたマリモたちが、描かれていました。

その絵の下には、こう書かれていました。

皆さんはじめまして、こんにちわ。まりもちゃんです。
ワタシは、昭和27年に北海道の天然記念物に指定されました。
淡水藻の仲間の植物です。取ることは禁止されています。
成長は一年に数ミリ大きくなる程度です。
きれいな水の中にしか生きていけません。
汚れた水の中にいると死んでしまうので、環境が悪くなると絶滅しちゃいます。
ワタシたちは、とてもデリケートな生き物。
地球はワタシたちと同じぐらいデリケート!!
さつきさんは、ワタシたちが安心してひるね出来るくらいの環境を守りたいと
がんばってるんだって。
カンシャ！カンシャ！



さつき まどか 作

マリモのマーくんや仲間たちのために、これからも社員一同がんばっていきます。
そして子どもたちと環境問題を考え、
将来への “思いやり” をうったえていきたいと思います。

すずき じゅんこ

京都市立芸術大学美術学部西洋画科卒業後、西宮市立大谷美術館絵本賞入選を始め、講談社絵本新人賞入選3回、小学館童画グランプリ入選、ニッサン「絵本と童話グランプリ」で優秀賞、大賞を受賞する。
日本児童出版美術家連盟会員。「障害者を納税者に」福祉法人プロップステーション設立メンバー。
主な作品に「エリーゼのために」(ソニー出版)、「サンタクロースのさいごのプレゼント」(ブックローン出版)、「グランマーマレードマジカルビレッジ」(digital palette)「ブルーの冒険」(ソニー)がある。

さっちゃんとマリモのマーくん

著者　すずき じゅんこ
原案　さつき あつし

2008年9月3日　初版発行
2008年9月15日　第2刷発行

発行所　株式会社 さつき
大阪市大正区鶴町4-12-27　TEL.06-6552-7272
発行人　皐月　篤
企画　株式会社 光洋アソシエイツ
企画協力　山田企画事務所
制作　株式会社 プラザ
印刷製本　株式会社 熨斗秀興堂
装丁　森本良成

©すずきじゅんこ／株式会社 さつき

（非売品）